



23 TOKYO

区政会館だより

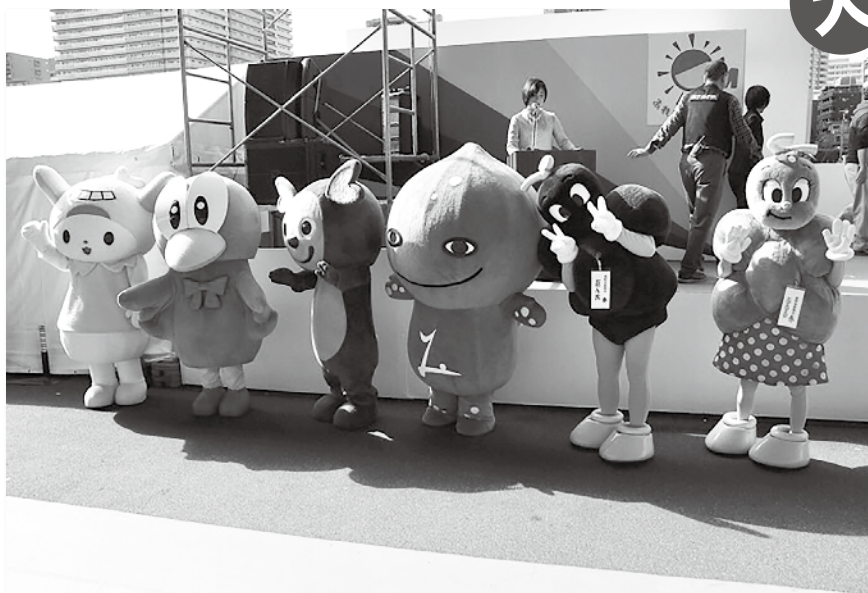
No.326

平成29年 5月

大

田

区



OTAふれあいフェスタで、はねびよん（番左）と友好都市キャラクターが共演しました

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

全国につながる
連携の輪

地道に育み腹を割った関係へ発展

江

東

区



江東区職員が北海道オホーツク管内の自治体を視察しました＝北海道置戸町立図書館で

未知の連携を形に育てる挑戦

全国につながる 連携の輪 大田区



大田区と東松島市との友好都市提携協定締結式（中央左が松原忠義大田区長、その右が阿部秀保東松島市長）

地道に育み腹を割った関係へ発展

大田区で毎年秋に開催される「OTAふれあいフェスタ」は、全国から大田区に縁のある自治体が集結するお祭りです。羽田空港を起点に全国の地方都市と結ばれている国際都市。でも、そんな派手なイメージとは裏腹に、大田区の自治体交流の特徴は、一つひとつの友好都市と地道な関係を積み重ねて、心の通った関係づくりにつながる堅実な取り組みでした。

ふれあいフェスタに友好都市集結

三つ目の友好都市協定の締結

昨年11月12日と13日、27回目を迎えた区内最大のイベント「OTAふれあいフェスタ」が平和島一帯で開催されました。昨年は「区制70周年！大田の魅力、いざ集結！」をキャッチコピーに催しが行われました。

当日は大田区公式PRキャラクターの「はねびよん」も登場し、他の友好都市のキャラクターも共演しました。

同フェスタは、「地域のふれあい」「交流の輪」を育む目的で始まった区民の手づくりのお祭り。今年も、友好都市の長野県東御市、秋田県美郷町を始めとして、区とつながりのある全国の地方自治体（東京都府中市、同新島村、秋田県横手市、新潟

県津南町、北海道檜山広域行政組合など）や、全国のボートレース場のある自治体関連で10団体が出展しました。

そして、今回、大田区は初日の12日に宮城県東松島市と友好都市提携協定締結式を行いました。

東松島市との交流は、東日本大震災における被災地支援がきっかけです。

東日本大震災の際、大田区は「被災地支援本部」を設置し、区内団体・区民との協働による東松島市でのボランティア活動を行いました。2011（平成23）年7月には両区市で「災害時相互応援協定」を締結したほか、大田区から東松島市に職員派遣も行っています。

一方、文化面では「OTAふれあ

いフェスタ」への参加や、2012（平成24）年5月には大田区&東松島市「絆」音楽祭を開催し、その後も毎年開催するなど、住民レベルでの文化交流も着実に進んでいます。

東日本大震災から5年が経過し、当初行ってきた支援活動の内容も、現在では地域行事の支援やコミュニティの再生をサポートするための支援に変わってきており、今回の友好都市提携協定の締結につながりました。

東松島市との交流はまだ始まったばかりですが、両都市は、防災、観光、文化、スポーツなどそれぞれが得意とする様々な分野を有機的に結び付けることで、絆の樹をより太い幹に育てていこうと、取り組みをすすめています。

休養村建設をきっかけに

大田区は現在、東松島市を含めて3市町と友好都市として交流しています。

長野県東御市（旧東部町）との交流は、1992（平成4）年に区民施設（現大田区休養村とうぶ）の建設用地に決まったことがきっかけで



大田区と東御市は文化交流が盛んです



多摩川の六郷土手の会場ではガーデンパーティーが開かれ、大田区と美郷町の子どもたちがふれあいます

始まりました。施設建設前の1992（平成4）年から「巨峰の王国まつり」と「OTAふれあいフェスタ」に住民同士が相互に参加して交流を深め、1996（平成8）年に友好都市提携協定を結びました。

「休養村とうぶ」は、北陸新幹線上田駅から送迎バスで約30分の場所があり、天然温泉も楽しめる宿泊施設付きの保養施設です。大田区立小学校の6年生の自然体験活動「移動

教室」にも利用されています。東御市の「巨峰の王国まつり」にも休養村を利用し、区民が参加しています。2004（平成16）年に東部町が北御牧村と合併し、東御市となったため、改めて東御市と友好都市提携協定を結びました。

大田区と東御市とは文化交流が盛んです。2006（平成18）年4月、友好都市交流10周年を記念し、大田

区立龍子記念館で、東御市にある梅野記念絵画館の特別展を開催。一方、東御市も2016（平成28）年、梅野記念絵画館で、大田区在住の書道家・金澤翔子氏の展覧会を開催しました。

こうして振り返ると、区民休養村の建設をきっかけに行政同士が着々と交流を進めてきたようにも見えますが、担当者は「始めから順風満帆だったわけではありません。役所の文化や風土が違いますから。最初はお互い侃々諤々かんかんがくがくの議論を交わし、ようやく腹を割って話せる関係まで熟してきました」と語ります。

「六郷」つながりで交流

春には区内10カ所で、「大田区子どもガーデンパーティー」が開かれ、そのうちのひとつ多摩川の六郷土手の会場には、秋田県美郷町の親子や関係者らが参加し、地元の子どもたちとふれあいます。

美郷町との交流は、「大田区六郷」と美郷町合併前の「旧六郷町」の「六郷」という同じ地名が縁です。1989（平成元）年に大田区西六郷少年少女合唱団が旧六郷町を

訪問し、演奏会を開いたことから始まったと言われています

こうした住民同士の交流を礎として、美郷町の子どもたちがガーデンパーティーやOTAふれあいフェスタに、大田区の子どもたちが雪体験や竹うちツアーに参加するなど交流を深めました。美郷町は2004(平成16)年11月に旧六郷町、旧千畑町、旧仙南村の三つの町村が合併して誕生。翌年、大田区と美郷町が友好都市提携協定を結びました。

美郷町は、「日本酒乾杯条例」を制定するほど、酒造りと稲作が盛んで地場産業のPRに熱心な自治体です。同町の中学生は修学旅行で大田区を訪れると、蒲田駅西口等で観光パンフレットや特産品の配布など、美郷町のPRを行います。大田区民も年1回、農業体験ツアーで美郷町を訪れています。

当初は、大田区の「六郷」と、秋田県の旧「六郷町」との住民の交流が中心で、自治体同士の交流はあまりなかったものの、数年に亘る住民同士の地道な交流の積み重ねが、自治体同士の友好都市提携協定締結へと結び付きました。一言で「友好都

市」と言っても、様々な歴史や背景があることが見てとれます。

「距離が違えば、交流の形も変わります」と担当者は話します。きっかけはそれぞれ異なりますが、お互いの住民や自治体職員などが地道に交流を積み重ね、腹を割った話ができる関係づくりが育まれてきました。こうした関係づくりは、人口減少や少子高齢化など、自治体単独では解決が難しい課題に連携・協力するための土台になるのではないのでしょうか。



コース上の「江戸人」を探す
まちかどウォーキング

川崎市と観光まちづくりで連携

大田区と川崎市は、2013(平成25)年4月に「大田区と川崎市との産業連携に関する基本協定」を結び、両者がそれぞれの特徴を活かして連携・協力し、地域経済の活性化に寄与する事業を行っています。自然、歴史、文化、産業など両者が持つ地域資源を効果的に活用して相乗効果を高め、新たな集客につなげています。

例えば、旧東海道に関係した取り組みです。2017(平成29)年2月には、「江戸人を探せ! 旧東海道まちかどウォーキング」と題してスタンプラリーが行われました。コース上に現れる「江戸人」を見つけ出し、スタンプを集めながらゴールを目指します。「おたかわ旧東海道フォトコンテスト」も行われました。川崎市・大田区の旧東海道に関する風景・名所・名物・人物・町並み・商店街・イベントなどを対象とし、旧東海道の魅力をとらえた写真が応募されました。

2016(平成28)年3月には、大田区・川崎市の両地域に湧く黒褐色の天然温泉「黒湯」をイメージした「黒湯サイダー」を発売しました。「大田区・川崎市観光まちづくり連携事業実行委員会」が作った地サイダーです。

価格は200円(税込み)。大田区と川崎市の銭湯などで販売されています。

天然温泉の「黒湯」
をイメージした黒湯サイダー

